

# がんば！！

NO. 22 (平成25年度 冬号)

赤十字奉仕団のみなさま、今年もよろしくお願ひします。

さて、2014年は日本赤十字社の救護活動にとって大きな転換期、節目の年となります。

これまで災害等発生直後の対応に専ら主眼が置かれていましたが、災害発生前の防災・減災、更には応急対応が一段落した後の復旧・復興までを含め、いわゆる災害マネジメントサイクル全体にも日赤として主体的・積極的に関わっていきます。

今後は、防災全般のためになる情報やその時々のトピック、各奉仕団の取組みなどの情報を、より密にかつ時宜を得て共有する必要があると考えています。皆様と一緒に、そして皆様のお力を借りしながら、日赤の奉仕団活動を変えていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事業推進課長 鶴巻忠孝



## 佐渡市で赤十字ふれあい祭りを開催

多くの住民の方から赤十字奉仕団活動に対して、理解と協力をいただくために、初めて実施しました。

ハイゼックス(災害時炊飯袋)を用いた炊出しの試食



や応急手当の体験、子供向けのアトラクションを行いました。

11月9日は、晴天にも恵まれて、多くの方が来場されにぎやかに開催されました。



## こども赤十字加盟園で、地域奉仕団が活動

胎内市では、市の全保育園・幼稚園から「こども赤十字」に加盟いただいています。

加盟園のひだまり保育園では、作品展の際に、わなげやキッズフォトやAEDの体験イベントを実施し、その運営に奉仕団が協力し、地域一体となった活動を行いました。



## 児童養護施設で「せきじゅうじアクション」を実施しました。

平成25年5月3日に児童養護施設の協力をいただき、「せきじゅうじ花絵\*アクション」を実施しました。この「せきじゅうじ花絵\*アクション」は、新潟県・新潟市の花であるチューリップ花を通して、児童・生徒が笑顔あふれる環境作りを目的として実施しました。

また12月22日に青年赤十字奉仕団が中心となり同じ施設で、参加者が笑顔で過ごせるよう「クリスマスお楽しみ会」を実施しました。

\*花絵とは、チューリップ球根育成のため、開花後、摘みとり捨てられる花を使い、絵を作成するものです。（にいがた花絵プロジェクトより（一部改変））



### <参加者の感想から>

- ・大切なことは、同じ目線で一緒に活動することだと感じました。
- ・初めての活動で、とても緊張したけど、フレンドリーに接してくれ、元気と優しさで助けられました。
- ・もっと、このような機会がふえるといいと思います。

平成26年度は、中越地域でも開催する予定です。



日本赤十字社 新潟県支部

Japanese Red Cross Society

★赤十字奉仕団と職員が「リレー形式」で繋いでいきます！今、熱中していること、私の想い、趣味、近況をお伝えしていきます。

## あなたは命の重さを何かに例えることができるでしょうか



嘱託指導講師  
桑原 昭

私は十年前、中越大震災で震度七の震源地の小学校に勤務していました。そこで6年生が家の崩壊とともに犠牲となってしまったのです。以来、ひとりの子どもの魂を胸に「命の尊さ・重さ」に思いを持って全国へ講演活動を続けています。



新潟県立大学青年赤十字奉仕団 藤原 聖さんへ

子ども育成支援活動では、大変お世話になりました。今後ともよろしくお願いします！

さて、趣味は山菜採りです。山奥に入り、ふきのとう、ゼンマイ、ウド、タラの芽、木の芽、キノコ、胡桃…。採ったものは自分で食べることより、お世話になった人へ贈るのが私の流儀です。もう40年近く続けています。

私の赤十字精神はシュバイツァー博士、マザーテレサなどの生き様に学び、日赤への思いを高く持って行動することです。そのためにも、若いうちから赤十字活動に取り組むことが大事だと思っています。青年赤十字奉仕団連絡協議会の委員長さんと支援活動を共にして、そのひたむきな姿に心動かされました。

期待して赤十字のタスキを渡します。

## 東日本大震災3周年 特別番組放送のお知らせ

日本赤十字社には、100を超える国と地域からこれまでに約1,000億円の海外救援金が寄せられました。

日本から海外へ「ありがとう」を、海外から日本への「支援に込められた想い」を伝え、海外救援金の概要や復興の現状を報告します。

### <予定>

○日 時 平成26年3月1日（土） 16～17時  
○放送局 BS放送（BS-JAPAN）

## 赤十字への活動資金にご協力ください

みなさまからの活動資金への寄付により、災害救護活動やボランティアの育成、救急法講習会などの事業を実施できました。ありがとうございました。

今後ともご協力をお願いします。

通年で、新潟県支部、各市区町村の赤十字窓口で寄付の受付をしています。

## あとがき

昨年は、7月に中越地方を中心とした豪雨災害、10月には、上越地方を中心に台風による河川決壊などの災害が発生しました。被害に遭われた方への支援を各地域において、多くの奉仕団員から協力をいただき、活動を行っていただきました。

今年は、中越大地震から10年目の年です。災害を忘れず、「自助・近所・共助」が出来る備えをしていきたいですね。

最近、県国際交流協会の「災害多言語支援ボランティア研修」に参加しました。今回は、災害時の外国人支援を「やさしい日本語」で行う。「豪雨」「救護所」「義援金」などをみなさんへ、外国人や子供へどのように伝えますか？

事業係 ましま

平成26年2月1日発行

発行：日本赤十字社新潟県支部事業推進課

〒951-8127

新潟市中央区関屋下川原町1-3-12

Tel.025-231-3121 Fax.025-231-3122

Mail.y-mashima@niigata.jrc.or.jp

次号は、3月末の発行を予定しています。